急に寒くなってきました。風邪をひいている人はいませんか。元気でやっていますか。

今日は、浜口雄幸さんの話をします。浜口雄幸さんは高知出身の総理大臣。今から約九十年前の一九三〇年の十一月十四日、つまり明日、東京駅のホーム上で、銃で撃たれてしまいます。

浜口さんは、真面目で頑固一徹。おひげを生やした、目つきの鋭い人だったので、「ライオン宰相」と呼ばれ、国民に人気のあった総理大臣でした。

浜口さんの名前が出ると、よく話題に上がるのが名前の話。「雄幸」というお名前は、実は「幸雄」が正しく、役所に名前を届け出るときに、浜口さんのお父様が酔っていて、逆さまに書いて提出してしまったため、「雄幸」になったと、まことしやかに言われてきました。その他に、浜口さんには二人のお兄さんがいて、三人目は是非とも女の子が欲しいと思っていたご両親は、女の子なら「幸」という名前にしようと考えておられたけれど、生まれてきたのはまた男の子。そこで雄（男）の幸さんということで、「雄幸」にしたという説もあり、真相は分かっていません。

浜口さんは、「政治ほど真剣なものはない。命がけでやるべきものである。」と、常々おっしゃっていた方のようです。

経費削減のため自分の給料を減らしたり、大臣の車の数を減らしたり、ボディガードの数も減らしたため、銃で撃たれるようなことになってしまったようです。銃で撃たれた時、弾丸はへその近くから骨盤に抜けていました。倒れた浜口さんは、周りを落ち着かせるためにか、「男子の本懐である。」＝（命がけで政治に取り組んできたので、死んでも本望だ。）とおっしゃったのだとか。

その後緊急手術を受け、腸を三十センチも切り取り、一命をとりとめましたが、結局数か月後に亡くなりました。

浜口さんが銃で撃たれた日からさらに約六十年前の十一月十五日（旧暦）、つまり明後日、同じく高知出身のお侍さんが暗殺されました。その人は新しいものが大好き。和服にブーツをはき、当時珍しかった連発のピストルを持っていました。そして、日本で初めて新婚旅行に行った人とも言われている、そう、あの方。高学年の人は名前を知っているのではないでしょうか。その方の誕生日は十一月十五日（旧暦）。つまり誕生日に暗殺されてしまったのです。

何が言いたかったかというと、力や暴力で意見の違う人を黙らせよう、ましてや殺そうなどということは、決して許されるべきことではないということです。現代の日本でもいまだに同じようなことが続いているのは、誠に残念です。

さて、浜口さんに話を戻しましょう。浜口さんは、「明日伸びんがために、今日縮むのであります。」という、すてきな言葉も残されています。

週末の学習発表会に向けて、各学年追い込みに入ったところでしょう。先生方の指導にも熱がこもる時期だと思います。発表や表現が、何度やっても、うまくいかない。じっと我慢して、努力してもうまくいかず、身の縮む思いをしている人がいるのではないですか。

もちろん、自分たちの発表が最高で、非の打ちどころの無いものを作り出せたら素晴らしい限りでしょう。でも、粗削りで、未完成でも、それを見たり、聞いたりしてくれた人たちが、「こうしたらもっと良くなる。」「こういう表現ややり方もある。」というように、表面上のきれいな結果よりも次につながるような発表ができること。皆で作り上げることの難しさや楽しさ、うまく事が進まないもどかしさを体験する過程こそが大切なのです。

良い結果が出せることは喜ばしいことですが、限られた時間の中で、今日縮む経験は、決して無駄にはなりません。週末に向けて、先ずは体調を一番に考え、ラストスパート。

「明日伸びんがために、今日縮むのであります！」

（立教小学校校長　田代　正行）